

## シリーズ「放課後子ども教室推進事業」 初中教育ニュース（初等中等教育局メールマガジン掲載）

### 【第63回】

#### 「学生プレイワーカーと子どもたち」

#### ～学生プレイワーカー育成・派遣システム構築事業を通して～

PLAY FUKUOKA 代表 古賀 彩子

福岡市の「わいわい広場」には、大学生がやってきます。

「とーくん、こっち来て！」

「ゆりりん、今日何して遊ぶ？」

子どもたちは彼ら大学生をニックネームで呼び、年上のお兄さんやお姉さんとして、あるいは一緒に遊ぶ仲間として受け入れています。

彼らは「学生プレイワーカー」です。プレイワーカーとは、子どもたちの本来持っている遊び心を引き出し、それを支えるための存在。どちらか一方が遊んであげたり、遊んでもらったりするような依存的な関わりではなく、子ども自身が主体的にのびのび遊べるような関わりができるよう、専門の講座を受けています。

大学生は子どもに世代が近く、思いきり遊べる存在であり、また、福岡は人口に占める学生数の割合も全国二位と高いことから、福岡市と当会は共働事業として、学生プレイワーカーの育成と「わいわい広場」への派遣システム作りに取り組んできました。学生向けに専門の講座を開講するとともに、7校以上の小学校に継続的に大学生を派遣しています。

大学生と遊ぶことで、子どもたちの様子にも変化が出てきました。かつては仲良しグループとしか遊ばなかった子どもたちが、今では学年やクラスの枠を超えた関係を形成しています。ものづくりなどを「教えて」とばかり言っていた子どもも、自ら創意工夫して思いのままに遊ぶ楽しさを感じているようです。多様で豊かな遊び心が広がっていることを実感します。

主に保育や教育を学ぶ大学生もまた、ここでの経験を有意義に感じているようです。自分たちの役割は何なのか、どのように関わったらいいか、彼ら自身がいつも問い直しながら、子どもたちとともに成長しています。

子ども、保護者、地域、そして大学生という多様な世代が協力することで、より一層豊かな場が生まれています。今後も、このような場をさらに広げていきたいと考えています。

（初中教育ニュース（初等中等教育局メールマガジン）第204号に掲載）